

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	30 日本文学専攻	責任者	藤尾 健剛
基準5	学生の受け入れ	自己評価	B
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 大学院への受験者を増やし、定員充足率を高める必要があるため、当該評価とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針> (記入してください。) 前期課程 文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. (1) 学部で培った基礎学力・基礎技能を活かして、それを既存の学力・技能と結びつけ、より高次の学力・技能として定着させることができる。 2. (1) 幅広い教養と広い視野に立脚した研究能力を身につけ、柔軟な思考ができる。 3. (1) 常に広い観点から現代社会、文化の諸問題を究明しようとする強い意志をもっている。 後期課程 文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. (1) 博士課程前期課程・修士課程レベルにおいて修得した学力・技能を基礎に、さらに高度な専門知識・技能を身につけようとする目的をもっている。 2. (1) 研究領域の拡大に努め、学際的・総合的な視野から学問研究に臨むことができ、幅広い教養と広い視野に立脚した研究能力を身につけ、柔軟な思考ができる。 3. (1) 国際的な水準で広く活躍することをめざして、常に広い観点から現代社会、文化の諸問題を究明しようとする強い意志をもっている。			変 有 () 更 無 (○)
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	専攻ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		

評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。	
<<回答>> 一般入試・推薦入試を実施している。問題作成にあたっては日本文学専攻協議会において日本文学専攻教員の中から問題作成委員・検査委員（英語の検査は英文学専攻教員）を選出している。また、面接試験においては日本文学専攻教員全員でAPを踏まえた議論を行い、投票によって合否を決定している。	<<資料名>> 30-C5-1： ①2023年度大学院入試委員一覽、 ②第10回日本文学専攻協議会議事録（2022.2.19）
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）	
<<回答>> オンラインによる入学者選抜は行わなかった。	
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）	
<<回答>> オンラインによる入学者選抜を検討していないため、回答を控える。	
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）	
<<回答>> なし	
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。
評価の視点1※ 【基礎要件●】	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16
評価の視点2※ 【基礎要件●】	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。	
<<回答>> 日本文学専攻独自の授業見学ウィークを設けて、本学部生に大学院授業を見学してもらい、内部進学希望者の増加に努めている。	<<資料名>> 30-C5-2： ①授業見学ウィークポスター ②第4回日本文学専攻協議会議事録（2022.7.4）
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：(開催日) 2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。	

2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。

◀回答▶

上述の通り、2021年度から、新たに日本文学専攻独自の授業見学ウィークを実施し、内部進学希望者の増加に向けた取り組みを行っている。

◀資料名▶

30-C5-3 :

- ①授業見学ウィークポスター
- ②第4回日本文学専攻協議会議事録(2022.7.4)

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注: 前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注: 2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	
--------	--

IV 【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2021-5III-1(5-3)	定員充足率の改善	定員充足率の改善を図るために、2021年11月第3週に日本文学専攻主催の「授業見学ウィーク」を設けたところ、学生10名(延べ)の参加があった。2022年度以降も、同「授業見学ウィーク」を実施し、大学のHPにポスターを掲載する等、広く情報を発信して、内部進学者の啓発に努めたい。また、国際化の観点から、留学生の受け入れも適正に行っていきたい。	収容定員充足率(%)	A: 充足率 50% B: 充足率 40% C: 充足率 30% D: 充足率 20%	2022 末 結果: C 2023: D 2024: C 2025: C 2026: B 2027: B 2028: A
①	6	2023(2022~継続)	(日本文学専攻) 授業見学ウィークの設置	大学院志望者のために文学研究科授業見学とは別に日本文学専攻主催の授業見学期間を設ける	文学研究科主催の授業見学ウィークでは対象とならない授業も公開する日本文学専攻独自の授業見学ウィークを設け、日本部学研究所の面白さを体験してもらおう。志願者の増加につなげる。	A(100%): 参加者数の増加 B(80%): 実施 C(50%): 計画 D(20%): 検討	2023: A

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>	<p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、webサイト等の根拠資料から明確である。</p> <p>求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、webサイトによって明確である。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、webサイトその他の根拠資料から、確認することができる。学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できる。オンラインによる選抜は実施されていませんが、公平</p>
------------	---

<p>な入学者選抜を実施するための取り組みとして、問題作成にあたっては日本文学専攻協議会において日本文学専攻教員の中から問題作成委員・検査委員（英語の検査は英文学専攻教員）を選出していること、また、面接試験においては日本文学専攻教員全員でAPを踏まえた議論を行い、投票によって可否を決定していることは評価できる。</p> <p>しかし、博士課程前期課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.41、収容定員に対する在籍学生数比率は0.50、博士課程後期課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.04、収容定員に対する在籍学生数比率は0.00となっている。改善・向上に向けた取り組みとして、昨年度から始めた取り組みの他に、新たに日本文学専攻独自の授業見学ウィークを実施したことは、評価できる。入試において専攻として講じたCOVID-19への対応・対策として、大学院説明会をオンラインで行ったことも評価できる。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性があり、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し明確に定められている。日本文学専攻協議会において日本文学専攻教員の中から問題作成委員・検査委員（英語の検査は英文学専攻教員）を選出しており、また、面接試験は日本文学専攻教員全員でAPを踏まえた議論を行い、投票によって可否を決定している。公正な入学者選抜として評価できる。</p> <p>だが、2023年度の博士課程前期課程の入学志願者数は0となり、入学定員に対する5年平均比率は0.33、収容定員充足率は0.17、博士課程後期課程の志願者数は1、入学定員に対する5年平均比率は0.07、収容定員充足率は0.11となっている。</p> <p>2021年度から、内部進学希望者の増加に向けた取り組みとして日本文学専攻独自の授業見学ウィークを実施されていることは評価できる。事業計画としても、授業見学ウィークの実施を在籍学生比率の改善計画としているが、2021年の「授業見学ウィーク」で学生10名(延べ)の参加があったことは第1歩であるが、志願者増加に繋げることの難しさは否めない。情報発信の場としてSNSを利用することも一考であろう。今後も取り組みを続けられ、志願者増加、収容定員充足率の改善に繋がることを期待したい。</p>

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p>基準5 学生の受け入れ</p> <p>【大学基準】</p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>（解説）</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。</p> <p>大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。</p> <p>大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。</p> <p>大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。</p>
--

